

## 審判員派遣報告書

派遣事業名	全日本大学バスケットボール選手権大会	派遣期日	令和3年12月6日～12月7日
報告者	藤田公介	派遣先	東京都

### 1 大会概要

大会名称	同上	大会期間	令和3年12月6日～12月12日
大会概要	各ブロックの代表が集まり、トーナメント形式で、日本一を決定する大会。		

### 2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和3年12月6日	会場	エスフォルタアリーナ八王子
審判クルー	CC:大山賢史（栃木） U1:栗山一平（和歌山） U2:藤田公介		
担当試合	男子 東北学院大学 VS 中央大学		
試合内容	高さとスピードともに上回る中央大学が着実に得点を重ね、勝利。		

日程	令和3年12月7日	会場	大田区総合体育館
審判クルー	CC:橘貴志（岩手） U1:石嶺良方（沖縄） U2:藤田		
担当試合	女子 名古屋経済大学 VS 大阪体育大学		
試合内容	どちらもスピード、得点力が高く、展開の速い試合となった。両チームとも外国人選手がいて、最後まで接戦であったが、僅差で大阪体育大学の勝利となった。		

## 1. プライマリエリア・アングルの意識と徹底

### ・センター、リードでのペイント内の捉え方

今回担当した2試合では、どのチームもビッグマンを擁しており、特にペイントの中での攻防が激しかった。PGC では、トランジションが起こった際に、センターやリードがどこの・どのようなマッチアップに視野を当てながらセットアップポジションに入るべきか、またその後の展開をどう予測し、ローテーションを行うのかについて確認をした。実際の試合では、ビッグマンや外国人選手によるペイント内での攻防が激しく、いつから・どちらから仕掛けが始まったのかについて目を離すことができなかった。バスケットのレベルが高くなるにつれて、オンボールだけでなく、オフボールでも各々のエリアで様々なバスケットが行われる。クルーが見ているものを理解した上で、自分が何を見るべきなのをその都度のプレイに合わせて確認していきたい。

### ・ストロングサイド エルボーエリア

PGC で、ストロングサイド エルボーエリアについて確認した。ここは3POで一番スポットとなる箇所、プレイの状況に応じて誰がプライマリとして判定をしなければいけないのかが変わってくる。試合中、このエリアでステップバックからジャンプショットが起こった。トレイルのプライマリエリアではあったが、最終アングルはセンターとなるケースであった。このような時に、エリアが近い・遠いという距離だけでプライマリを考えるのではなく、最終アングルをどのレフリーが捉えているのかを考える必要がある。

## 2. 3 or 2

誰がそのショットに対して一番手なのか、プライマリではない時に安易に3or2をあげない、またブレイク→サドンショットなどの状況でトレイルが遅れた場合、トレイルの状況を理解した上でリードがピーク&フラッシュでヘルプを行うという約束事をクルーで確認した。県内でも3or2に対して無意識に手を挙げている場面が見られるが、これについても誰がプライマリなのか、プライマリレフリーはショットに対してアングルが取れているのか、もしアングルの確認が厳しいなら、それをヘルプするセカンダリは誰なのか、を常に考える必要がある。

## 3. リーガル、イリーガル、マージナル

PGC やポストゲームカンファレンスで、よくマージナルという言葉が出るが、マージナルという判定を下すには、何がリーガルもしくはイリーガルなコンタクトなのかを理解しておく必要がある。リーガル・イリーガルの線引きができない状況でマージナルという選択肢はなく、それは単に「分からなかった」という判定に過ぎないと思う。そうならないためにも、どのような条件が揃えばファウルが成立するのか、ガイドラインに載っているフローチャートを改めて確認するとともに、その判定をより正確なものにするためのメカニクスやIOTに取り組んでいきたいと思う。

今回の報告内容は、皆さんもよく知っているベーシックな内容であり、県大会でも全国大会でもPGCで確認する内容は同じものである。しかし、このベーシックをどれだけ正確・確実にオンザコートで発揮することができるのか、香川県一丸となって取り組んでいきたいと思う。

最後になりましたが、今大会に派遣して頂きまして、香川県バスケットボール協会・審判委員会の皆様には感謝申し上げます。今後とも、ご指導宜しくお願い致します。